

2 りんごわい性樹の品種更新方法 (園試 果樹部)

わい性樹を高接ぎによって品種更新する場合は、更新樹の地上50 cm以内の主幹接木部の太さが直径5 cmぐらいを限度として、休眠枝の切接法がよい。

(1) 背景とねらい

りんごのわい化栽培においても優良系統や新品種への更新が必要な場合も生じてきている。しかしながら、わい性樹は、樹冠の大きい普通樹と異なり、主幹に直接小さめの結果枝が配置された小形樹であり、しかも、これら結果枝は4～6年で新しい枝に更新されるため、高接ぎ等による方法は容易でない。このため、更新法を検討したので、指導上の参考に供する。

(2) 技術の内容

- 1) わい性樹の品種更新では、台木部分をさけて、主幹のできるだけ低い場所に接木する。
- 2) 主幹、接木部の太さは直径5 cm位を限度とする。
- 3) 接木方法は切接ぎとする。

(3) 指導上の留意点

- 1) 主幹部など太い場所への切接ぎの際は、接木部の癒合形成をはかるため、2～4本接ぐと良いが、生育期間中に1本のみの伸長をはかるよう心がけ、他の接穂は切りつめるなど生育を抑制する。
- 2) 接木用穂品種は無毒の穂木を用いる。
- 3) 主幹部への芽接ぎや駒接ぎは活着が悪いばかりでなく、生育も著しく劣るので行わない。

(4) 試験成績の概要

- 1) 主幹部の地上50 cmへの接木では、5年生樹の接木部、太さ4～5 cmのきり接ぎで83%と活着率が高く、接穂の平均伸長量も85 cm、フェザー発生数も4.5本と多いなど生育は良好であった。
- 2) しかし、ネロ26号/M26 9年生樹の接木部太さ6～8 cmでは60%と低く、接穂の伸長量も36 cmと短く、フェザーの発生も0.8本と少なかった。
- 3) 芽接ぎ及び駒接ぎの活着率は低く、実用性は認められなかった。

(5) 主要成果の具体的データ

接実場	木場所	穂品種	中間台および台木	接木部位	接木方法	供試樹数	活着樹数	同活着率(%)	接木か所数	活着数(本)	同率%	接穂の生育(本)					1本当り平均伸長(cm)	1本当りフェザー数(本)	接木部位の太さ
												100cm以上	80cm以上	50cm以上	30cm以上	30cm以下			
園試圃場	ふじ	ジョナゴールド M26 5年生樹	主幹地上50cm	切接ぎ	34	28	82.4	68	51	75.0	6	13	9	1	0	85.1	4.5	4~5cm	
				主幹125cm	切接ぎ	5	5	100.0	8	7	87.5	2	2	3	2	0	74.5	0	3~4cm
				側枝	〃	-	-	-	22	22	100.0	2	6	14	15	0	58.5	0	1~2cm
一の関田沢	千秋	レッドスーパー M26 6年生樹	主幹50cm	切接ぎ	13	13	100.0	13	13	100.0	4	1	4	5	0	67.2	3.5	3~5cm	
				側枝	〃	-	-	-	4	4	100.0	1	0	1	1	2	32.6	0	1~2cm
			主幹100cm	切接ぎ	10	10	100.0	13	13	100.0	4	3	5	2	0	92.0	2.3	2~4cm	
				側枝	〃	-	-	-	41	36	87.8	2	4	15	20	0	48.9	0.3	1~2cm
			主幹地上50cm	芽接ぎ	107	9	8.4	-	-	-	2	1	0	0	0	1.9	0	4~5cm	
江刺小倉沢	秋香	ネロ26号 M26 9年生樹	主幹50cm	切接ぎ	10	6	60.0	24	13	54.2	0	0	4	4	5	36.2	0.8	6~8cm	
				主幹100cm	切接ぎ	10	7	70.0	23	15	65.2	11	15	8	0	1	72.7	2.3	4~6cm
			側枝	〃	-	-	-	44	20	45.5	6	13	9	5	1	79.3	2.0	1~3cm	
			主幹200cm	切接ぎ	2	2	100.0	3	2	66.7	0	1	1	0	0	80.5	3.0	3~4cm	
				側枝	〃	-	-	-	27	19	70.4	2	3	16	2	2	62.5	1.6	1~3cm
平泉長島	ふじ	スターキング デリンダス M26 6年生樹	主幹50cm	駒接ぎ	14	5	35.7	28	9	32.1	0	0	0	0	9	2.8	0	5~8cm	